



授業に夢中！

生徒 小関先生の英語の授業では、ペアで話したり、エッセーを書いたり、絶えず英語を使っているし、しかも自分の考えを伝える課題が多くて、頭が常にフル回転しています。いつも50分間があつという間です！

生徒 1年生の最初の頃は3～4つの単語をつなげて話すだけで精いっぱいだったけれど、2年生になった今では、2文くらいならすらっと話せるようになりました。エッセーもだいたい書けるようになり、自分でも驚くほど英語力が上がっていると手応えを感じています。

先生 エッセーは、5分間で平均50単語以上は書けるようになったよね。誰もが話したい、書きたいと思うようなトピックを選び、活動を工夫してきたかいがあったよ。

生徒 印象に残っているのは、最初と最後だけ英文が決まっていて、その間を1人1文ずつ書いて、クラス全員で物語を完成させた活動です。話をスムーズにつなげるために前の人までが書いた英文を真剣に読んだし、どう展開させようかと想像して書くのは楽しかった！

先生 事実や意見だけでなく、ユーモアのあることも英語で表現できるようになってほしいと思って、この活動を取り入れたんだ。みんな、想像力を発揮して、

かなり盛り上がったね。

生徒 正直、授業以外で英語を使う機会はそんなになんと思っていましたが、修学旅行先で外国人に場所を尋ねられたことがありました。思いの外聞き取れて、英語で答えることができ、授業で学んだことは役に立つんだと思いました。それと、相手の話す英語が先生の発音と同じで、「先生、すごい！」と感動しました。

先生 それはうれしいな。先生が本格的に発音を学び始めたのは大学時代で、1年間の留学もしたけれど、今もCDを聞きながらの発音練習は欠かせないよ。

生徒 修学旅行から帰ってきた後、授業でとっさに単語が出てこないことがありました。ずっと授業がなかったからだと思うと、毎日続けることが大切なのだと実感しています。もう少し上手に英語を話せるようになりたいので、長く話す機会が授業にあるとうれしいです。

先生 みんな、かなり力がついてきたし、今度取り入れよう！ 将来、仕事で英語を使ったり、外国人と友人になったりと、英語が必要な時に英語力がないからと諦めてほしくないの、今後も、楽しみながら学べる授業にしていくなために工夫していくよ。

小関 隼先生 教職歴7年。同校に赴任して3年目。進路指導部。2学年担任。英語科。

北海道伊達緑丘高校 全日制／普通科／共学／1学年約140人／2017年度入試合格実績(現役のみ)国公立大は、小樽商科大、室蘭工業大などに5人が合格。私立大は、北星学園大、北海学園大、文教大などに延べ50人が合格。